

10月16日(金曜日)「主の祈り(2)」

【新改訳 2017】

ルカ 11.1-4

### 「御名があがめられますように。」(2節)

主の祈りには、マタイによれば 7 つの祈願があります。その第一は、まず父なる神のお名前が崇められることです。直訳すると、「あなたの名前がきよくされ(崇められ)ますように」となります。神の「御名」に、どれだけの深い意味が込められているかは、主が祈られた祈りで、「大祭司の祈り」として知られている祈りの中によく感じ取ることができます。ヨハネ 17 章を読んでください。

父なる神は、絶対者なるお方、全知全能のお方、全き義なるお方、「有って有る者」と自ら言われた存在のお方です(出エジプト 3・14 参照)。そこには一点の汚点や罪などない、全き聖なるお方です。ですから、その御名は、ほめたたえられ、崇められ、きよくされる以外にないのです。神の子どもとされた者たちは、そういう父なる神として、心から信頼し、みことばに聞き従って生きるようにと祈っていることを意味しているのです。

～祈り～

主よ。どうか、心から天の父を信頼し、何よりもまず第一に、  
「御名があがめられますように」と祈れますように。

【学びのために】。

ルター「神の御名はもちろんそれ自身聖なるものですが、われわれはこの祈りによって、私どもの間においても、これが聖なるものであるように祈るのです」。(注)今回引用の「ルターの小教理問答書」は、『ルテール教会信条集(一致信条書)』(1962年、聖文舎)によります。